

光・量子ビーム研究開発の方向性 (案)

資料2-3
科学技術・学術審議会 先端研究基盤部会
光・量子ビーム研究開発作業部会(第5回)
平成24年6月19日

取り巻く状況・課題

先端研究等が必ずしも産業利用等に繋がっていない

先端基盤研究開発の弱体化が懸念

複数の大型施設が利用期に

光技術と量子技術の近似

融合分野や境界領域で新たな芽生えがある

広範な分野を支える基盤技術として利用拡大が必要

今後を支え発展させ、活躍できる人材の不足

今後5年程度で求められること

原理解明に基づくものづくりの推進

装置の小型化、産業展開の推進

複数光源や施設等の有効活用

利用者の掘り起こし、分野開拓

高度な科学技術人材の育成

ものづくり力の革新を実現する先導的研究開発

横断的・統合的な利用研究と技術開発

融合・連携によるイノベーション成功事例の創出

産業界を含めた利用者の裾野の拡大

研究開発と一体的な若手研究者等の育成

目指すべき方向

施設・装置等の最大活用、利用拡大

光・量子ビームプラットフォームの基礎形成

世界に先んじた光・量子基盤技術

課題解決に向けた研究開発

我が国でしかできない研究成果・製品開発

イノベーションの創出・国際競争力の強化